

スポーツ日報六条

爽やかな雰囲気  
笑顔ほころぶ

必天王町勝

第47回

六条地区  
区内体育祭

六条小学校  
校内体育大会



今年も、六条小学校校内体育大会と六条地区体育祭が熱烈合体して開催されました。競技は、5歳・8歳・10歳走、みんなでジャンプ、親子玉入れ、親子ジェスチャーリレーなどで交流が図られました。今年は天候も良く、ちよつと汗ばむ春風が吹く中、恐竜になってLet's Goが披露されました。さらに学年リレーが低学年・高学年でレース行われました。

競技が終わり、校長先生ならびに各団体の長から賞状が手渡されましたが、以前の大相撲でも人気となったパンナム航空の表彰状のようにインパクトのある内容のものもありました。

交通安全を啓発する賞状がそれで、「あなたは日頃より交通ルール・交通マナーを守りバトンをつないで誰よりも早くゴールを目指したことを賞します。なお、本レースにおいてもルール・マナーに違反はありませんでした」と吉村交通安全協会交通安全推進協議会長が読み上げると、どつどつ？笑いが起こっていました。

日本で最初に運動会が開催されたのは明治7年に海軍兵学校で行われたとあります。しかも名称が「競闘遊戯会」となっていて、その後明治29

年に文部省が全国の小中学校で集団訓練のために運動会を実施することを義務付けたとありました。

運動会と言えば、紅組、白組、の競争合戦ですが・・・そもそも紅白合戦のルーツは・・・どうやら源平合戦にあったというのが定説になっているようです。

平安時代に敵対していた源氏と平家の源平合戦の折に両軍が持った旗。敵と味方を区別するために、平家があか、源氏がしろの旗をたなびかせた。あか対しろの構図はこ

からきているらしい。これが紅白合戦の由来であり、やがて大陸からの外敵を打つために、源氏と平氏の侍達が力を合わせた戦った時に、平家は赤地に白丸、源氏は平家に対抗して白地に赤丸の旗を掲げ戦ったそうです。平家が勝つて源氏が負けていたなら、日の丸も赤地に白丸だったと云う説もありますが・・・

では源平合戦の平家のあか旗は、「赤」か「紅」なのか。14世紀ごろに書かれたとされるおおもとの本をベースにした「日本古典文学大系・平家物語」の文章を追うと、平

家の旗は「紅旗」ではなく「赤旗」ばかり。源平合戦に由来する2組の戦いを表現するのなら、「赤白合戦」とするのがより適切です・・・

「NHK紅白歌合戦」。昨年74回目の長寿番組であり、「紅白を見なければ年を越せない」といわれた時代もあった。この紅白歌合戦に限らず、運動会など2組に分かれて勝負を競う戦いでは「紅白」の文字が多く使われる。でも、「あか」組と「しろ」組の対抗戦なのに、なぜ「赤白」ではないのでしょうか。

決定的な証拠は残っていませんが、考えられる説はいくつかあります。一つは漢字発祥の地・中国の影響。「中国ではあか、といえは赤ではなく紅の字が多く使われる」と言われています。「紅は単にあかい色を示すだけでなく、魅力的な色とされているらしい。

例えば「紅人」は人気者という意味。ご祝儀は「紅包」と呼ばれ、紅は色彩だけでなく、縁起の良さや事業の順調さをも示す、幸運の象徴のような漢字らしいです。

平家物語に登場する源平合戦のハイライト、壇ノ浦の戦いの場面にこんなくだりがあります。「海上には赤旗あかじるしなげすて、かなぐりすてたりければ、龍田川の紅葉葉を風の吹ちらしたるがごとし」源氏の手落ちた平家一族が滅んだ後、平家のシンボルだった赤旗が海に散乱した様子、紅葉の美しい色になぞらえたシーン。紅は、5世紀ごろ日本に上陸し染料に使われた紅花(べにばな)のことも指しています。とりわけ身分の高い人々が好んだ色だったということらしいです。

うーん、なんか消化不良？  
ご苦勞様でした。

六条公民館からお知らせ  
今回、歴史講座は、時空の歪みを利用して古墳時代・平安時代へと時間旅行を企画しました。6月から毎月第3木曜日の14時からです。現地でのお世話は稲葉友昭氏が行います。初回は継体天皇です。参加料は無料です。

事前申し込みも不要です。座席には限りがあります。時間厳守でタイムスリップしますので余裕を持ってお越し下さい。時間酔いされる方は酔い止め持参をお願いします。